

泌尿器講座

膀胱がん ①



いいい泌尿器科クリニック院長
石井 達矢

●(いいい・たつや)1999年(平成11年)山形大学医学部卒業。同大附属病院、市立病院済生館、公立置賜総合病院勤務などを経て2020年5月いいい泌尿器科クリニックを開業。医学博士、日本泌尿器科学会認定専門医、日本医師会認定産業医。

膀胱がんが膀胱内にとどまっている場合は手術による治療が基本になりますが、がんが他の臓器に転移している場合は薬物療法が基本になります。近年は効果的な新薬も登場しています。

効果的な新薬が登場

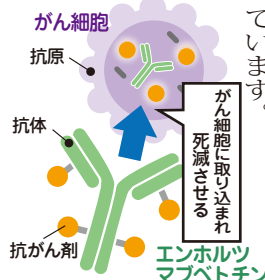
その新薬とは「エンホ

ルツマブベドチン」で、抗体薬物複合体(ADC)という種類に分類される薬です。

がん細胞表面にはネクチン-4分子という抗原があります。ADCには抗原と付着する抗体に抗がん剤が結びつけられており、抗体が抗原と付着するとエンホルツマブベドチンの抗体に結びつ

いた抗がん剤ががん細胞に取り込まれ、がん細胞を死滅させます。

エンホルツマブベドチンは従来の抗がん剤とは異なる「標的を絞った治療」として、膀胱がん治療の新しい選択肢になっています。



新薬の組み合わせも

また、エンホルツマブベドチンに「ペムブロリズマブ」という免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせた治療も登場し、治療が大きく進歩

しています。

ペムブロリズマブは、がんが免疫の働きを弱める仕組みを解除し、体の免疫ががんを攻撃しやすい状態をつくる薬です。

がん細胞を直接攻撃するエンホルツマブベドチンと、免疫の力を高めるペムブロリズマブを併用することで二つの作用が相乗的に働き、より強い治療効果が期待できるようになりました。

経過観察が重要

治療では、治療中や治療後の経過観察も重要です。CTやMRIで腫瘍の大きさや転移の有無を定期的に確認し、治療効果を評価します。血液検

査で副作用のチェックも行い、必要に応じて治療内容を調整します。

早めに相談を

薬物療法の進歩により、QOL(生活の質)を保ちながら治療を受けられるようになっています。何事も、早めに主治医に相談することです。

〈泌尿器科・内科〉

いいい泌尿器科クリニック

☎023-616-3601 山形市桜田西4-17-49

●診療時間
午前/9時00分～12時30分
午後/14時30分～18時00分

●休診日
木曜午後・土曜午後・日曜・祝祭日

